

ねじりはちまき

有限会社幸田建設 創業者 幸田常一

令和 7 年 2 月 10 日 永眠いたしました。昭和 2 年 4 月 1 日生まれ 97 歳

平成元年頃からは主に自宅で、妻と 2 人で 24 時間 365 日仲良くけんかをしながら生活しておりました。これといった病気もなく穏やかな日々を送っておりました。2 月 7 日吐き気の為入院し、検査をしましょうという医師の言葉で安心したところ、2 月 10 日に血圧が下がり、午後 9 時 2 分に息をひきとりました。97 歳の長寿を全うしたとはいえ、あまりの急変に家族全員の気持ちがついていきませんでした。しかし、本人の事だけを思えば大往生といってもいいのではないのでしょうか。社報である『ねじりはちまき』の挨拶文を毎月掲載しておりましたが、ついに書くことができなくなりました。「残念だ」「さみしい」等のお声を大勢の方々よりいただき、ありがたい限りです。今後、どのようにしていくか検討中です。次筆をもたなかった失敗もありますが、97 歳よりまだまだ長く続くものとばかり安心しきっておりました。長い間、本当にありがとうございました。合掌

有限会社幸田建設 代表取締役 幸田一二

いつもの挨拶文ですと、3 月 弥生 3 日ひなまつり 20 日春分の日…となるのでしょう。『ねじりはちまき』の挨拶文は毎月、幸田常一が担当してくれていましたが、先月号で最後になってしまいました。令和 7 年 2 月 10 日 永眠 97 年の人生でした。高齢に伴い、執筆も負担なのではと心配したことがありましたが本人曰く「ボケ防止に大変良い」と快く引き受けてくれていました。平成 9 年の発行より長きにわたり常一の挨拶文を読んでいただきありがとうございました。最後に生前中に賜りました格別のご厚情に対しましても、ここに併せて心より深く深く感謝申し上げます。

有限会社幸田建設 ねじりはちまき発行責任者 幸田久美

<会社近況>

大寒波がピークを過ぎ、三寒四温の時期になりました。春の訪れを少しずつ草花や、空気で感じられるこの頃です。ただいま、二本松市で住宅新築工事、本宮市で修繕工事などをお世話になっております。

<3月>旬のもの

【キウイフルーツ】店頭に並んでいる多くはニュージーランドで改良が進み、様々な品種が育成されたそうです。国産は冬から春に旬を迎えます。美味しいキウイの選び方は、表面がキレイで痛みやキズがないもの、部分的に柔らかくなっていないもの、うぶ毛がまんべんなくあるものが美味しいキウイのようです。また、果肉が固い場合は少し追熟させると良いという事です。サラダに入れたり、つぶしてお肉のソースにしたりと美味しい食べ方は沢山ありそうですね。

【ネモフィラ】別名：ルリ唐草、ベビーブルーアイズ お花の見た目が名前の由来になっているそうです。ブルーのきれいな花を咲かせます。種をまいても育てられ、こぼれ種で増えることもあるようです。たくさんの花が野原一面に咲いたら、それはそれはキレイですよ。かの有名なネモフィラの丘(ひたちなか市)が、これからの時期にきれいに咲きます。機会があればぜひ、ご覧になってみてください。



令和7年3月5日発行

<発行責任者>幸田久美

有限会社 幸田建設

969-1204 本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記> 先日、祖父が97年の人生の幕を閉じました。ご会葬頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。小さい頃からじいちゃんっこだった私には、もう少し時間が必要です。(ほしの)

「地方創生」という言葉は結構マスコミを賑わしているのですが、ご存知の方が多いと思う。この「地方創生」が国の施策として打ち出されたのは、第二次安倍内閣の時で2014年（平成26年）のことだという。その目的は「東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした一連の施策」とされる。

その後もこの「地方創生」施策は歴代内閣に引き継がれ、現在の石破内閣も地方創生の予算を増やし、力を入れていると言っているが、施策効果は果たして実を結ぶものかどうか。

というのは、「東京一極集中の是正」は、大部前、50年以上前から国の政治課題になっているが、「東京一極集中」は依然として是正されないからである。何を持って「是正」というか、物差しの当て方も難しいが、何事をするにつれ、地方にあっては常に東京に眼が向けられているということである。東京には、人を惹きつけるもの、企業にとっても必要とするものが集積しているといえる。では、今後どうなるのだろうか。

ここで、自分の生きてきた時代を振り返ってみたいと思う。自分が中学生の頃（昭和30年代前半）は、中学卒業で就職する人はまだ多くいた。その就職先はほとんど東京方面であった。そのころ流行した歌謡曲も、東京への憧れを内容とするものがいくつもあった。その当時（昭和35年）は、池田内閣が「所得倍増計画」—実質国民総生産を10年以内に2倍にすることを目標—を閣議決定し、発表したように経済成長が目覚ましい時期であった。その経済成長の中で、企業の集積が「太平洋ベルト地帯」に集中し、地方との格差が生じているというので、その集中（過密）の是正策として打ち出されたのが「新産業都市」の建設である。昭和39年に全国15地域が指定された。本県では「磐城・郡山地域」が指定された。地域の開発発展の中核となるよう産業の立地条件及び都市基盤の整備がなされることになったのである。また、この指定と併せて、広域の市町村合併も行われた。自分はこの頃大学生であったが、「磐城・郡山地域」の指定に当たっては、磐城と郡山の間の阿武隈山地は「山ではなく、丘みたいなもんで支障なし」とされたと後で聞かされた。

次は、自分が就職して間もない、昭和47年頃の話である。時は、田中角栄内閣の時代である。田中首相は、インパクトのある「列島改造論」を打ち出したのである。その狙いは、東京・大阪間では整備が進んでいるが、日本列島を高速道路、新幹線、本州四国連絡橋の高速交通網で結び、地方の工業化を促進し、過密・過疎の問題を解決しようというものであった。そのころ本県内では、東北自動車道が開通していたが（昭和47年）、列島改造論によりその後全国的に高速交通網の整備が進展するのである。東北新幹線の本県開通は昭和57年のことである。また、田中角栄の郷里・新潟を結ぶ上越新幹線の開通も昭和57年であった。この改造論の副産物として、建設には用地買収が伴うので、地方の地価が高騰したことが挙げられている。ところで、高速交通網が整備されることで、地方にとっては東京への往復が便利になったが、東京側にとってはそれによって特に変わるものはなかったようだ。余談だが、東京への利便性が増した例として、自分のことでは、東京への出張が従来だと1泊付いたが、新幹線になったら日帰りになったというのがあった。また、郡山駅からだと、東京への通勤も可能だということが話題になったこともある。

この頃の県内の動きとして一つ。昭和50年に建設着工された東京電力の福島原子力発電所1号機が、昭和57年に発電稼働したのである。本県は、東京電力の電力供給圏でない。それなのになぜ本県に東京電力の原発が立地するのか、自分としては、不思議に思ったものである。今日の事態を思うと、本県への原発立地は大きな出来事であったと思う。考えてみれば、原発による電力供給が東京の一極集中を支えてきたともいえるかも知れない。

次に、「地方定住圏構想」の話に移ろう。昭和52年に国の「国土総合開発計画」が策定され、この構想が盛り込まれた。本県では「会津地域」が選ばれて「定住圏構想」が策定

されたのである。その話題の一つ。その構想の中で、地元の要望で強かったのが「大学の設立」であった。この要望は松平勇雄知事から佐藤栄佐久知事に受け継がれ、県立会津大学が平成5年に開学するに至ったのである。会津大学の最大の特色は、充実したコンピュータ教育・研究環境が備わっていることである。教員もその4割が外国人教員である。

また平成7年頃、首都機能移転が話題になった。首都機能移転は「首都」の移転ではない。皇居は移転しないのである。首都の機能の一部を移転するということである。法律も整備された。何が移転するかよく分からないが何かは移転するであろうと、栃木県や福島県が名乗りを挙げた。本県の候補地は阿武隈山系である。福島空港が開港したことも含めアピールされた。でも国の具体的動きは何もなく、うやむやになってしまった。ようやく最近になって、省庁の移転として文化庁の一部が京都に移転したのである。

次は「ふるさと納税」のことである。最近、ふるさと納税額は全国で1兆円を超えたという。ふるさと納税についてはご存知の方も多いと思う。納税という言葉が使われているけれども、自治体に対する「寄付」である。今は都会に住んでいるが、自分を育ててくれた「ふるさと」に寄付して、応援しようという制度である。それを「納税」と捉え、ルールに基づいて住民税の控除や所得税の還付が受けられ、寄付した自治体からは地域名産の返礼品をもらうことが出来るという制度である。総務省のホームページには、「ふるさと納税で、日本を元気に」というスローガンが掲げられていた。例えば、北海道のある町では、返礼品を町特産のサーモンとすることで、ふるさと納税額が年160億にもなり、自主財源として住みやすい施策を充実し、移住者が増えているというレポートもある。

最後に「地方創生」の話に戻りたい。地方創生は、冒頭に掲げた趣旨に則り、自治体（単独または協同）の地域活性化の企画事業に財源として国が「地方創生推進交付金」や「地方創生拠点整備交付金」を交付することで進めてきた。それでは、石破内閣ではどう進めようとしているのか。昨年12月の「新しい地方経済・生活環境創生本部」で示された石破首相の考え（地方創生2.0での基本的考え方）を次に紹介したい。

「これは単なる地方活性化ではない。日本全体の活力を取り戻す経済政策であり、国民の多様な幸せ、楽しい地方を実現する社会政策である。これまでの10年間の反省を踏まえたうえで、新たな取り組みを進めていく。（中略）そのために、人を大事にする地方、楽しく働き、楽しく暮らせる地方を創っていく。人口減少しても災害から地方を取り残さない、事前防災・危機管理もこれまで以上に万全を期していく。社会政策としては若者・女性に選ばれる地方、楽しい地方を創っていくことを第一の主眼としている。そのために重要なのは、職場・地域の構造や意識の変革であり、若者・女性にとって魅力のある働き方・職場づくりであり、それを起点として地域社会を楽しいものに変えていく、これこそがこれまでと異なる地方創生2.0の第一歩となるものである。」一以上です。

これからの展開を楽しみにしておきたいと思います。今回はこれで終わります。

茨城百景 堅破山 黒前神社

【今回登った山の概要】（数字は標高）

「堅破山（658）」を正確に読むのは地元以外の人では難しいのではないかと「たつわれさん」と読む。茨城百景（百選）の一つ。

自分はこの山の存在を知らなかった。いわき市在住の山友Kさんに教えてもらい、いつか登りたいと思っていた。登山口までのアクセスが分かりづらいのでKさんが案内を申し出てくれたが、日程が合わず一人で出かけることになった。

日立市観光物産協会のホームページによると、堅破山には、「大和朝廷の命を受けて北上してきた「黒坂命（くろさかのみこと）」が穴にイバラを敷き詰めて賊を滅ぼした話や武神「八幡太郎源義家」が参拝し霊夢を授かった話」などが伝わり、伝説と信仰の山とされている。

2月22日（土）自宅発7:30、本宮ICから磐越道、常磐道を乗り継ぎ高萩ICで降りる。集落から離れた登山口は所番地があるわけでもなく近くに公共の施設もないので車のナビでは、「茨城県高萩市中戸川」中心部を目指して行く。ナビの示した所は家が数軒ある集落だった。たまたまこれから車で出かけようとする熟年夫婦の方がいたので道を聞いた。

さらに山間部の舗装路で、車が2台が停まっていたので道を聞いた。飲用の湧水を汲んでいた人達だった。

ようやく大きな看板の所に着くことができた（下左）。ここからは案内板があり車が約10台停まっていた広い駐車場に、10時前に着くことができた（下右2枚）。



自宅から約2時間半かかった。





茨城県常陸太田市の熟年女性が、近く友人と登るために下見に来ていた。10:15 スタート、途中までご一緒する(上)。

後生車(ごしょぐるま)を回し登山の安全を願う(2段目左・・・神社に後生車?)。



杉林が見事だ(2段目右)。



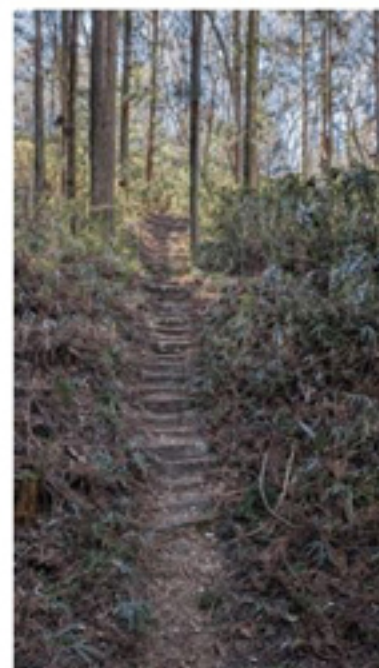
八幡太郎義家のえぼしに似ているという烏帽子石、どのようにしてこのような石ができるのだろうか(3段目)。

「八幡太郎義家の手形石」(4段目左)。東屋の先に小さなお宮がある(4段目右)。



しめ縄の張られた門(※1)を

くぐり階段を登って行く(下左、右)
※1門: 随神門(元仁王門)





登って行くと釈迦堂と甲石（かぶといし※2）のある広場に出る（上）。写真の右の建物が釈迦堂。（※2）甲石（2段目左、右）：外周12m、高さ3.5m。堅破和光石とも言い、この中に薬師如来が宿り、石の割れ目から光を出して病を癒すという。

また格子（2段目右）中心部の中に十二神将（薬師如来の守護神）が納められていたが、現在残っているのは6体で、



麓の集落で保管されているとのこと。



舟石という小舟の形をした石もあった（3段目）。

釈迦堂の裏手から急坂の171段の石段を登ってようやく「黒前（くろさき）神社」に達する。

立派な黒前神社の拝殿の写真を取り忘れてしまった。拝殿の右脇から回り込んで石の本殿（写真中央）を撮ったが樹木があり分かりにくい。囲む塀は半ば倒れていた（下）。



拝殿の先にらせん階段で登る展望台があった。樹木の成長で展望がきかない所もある。

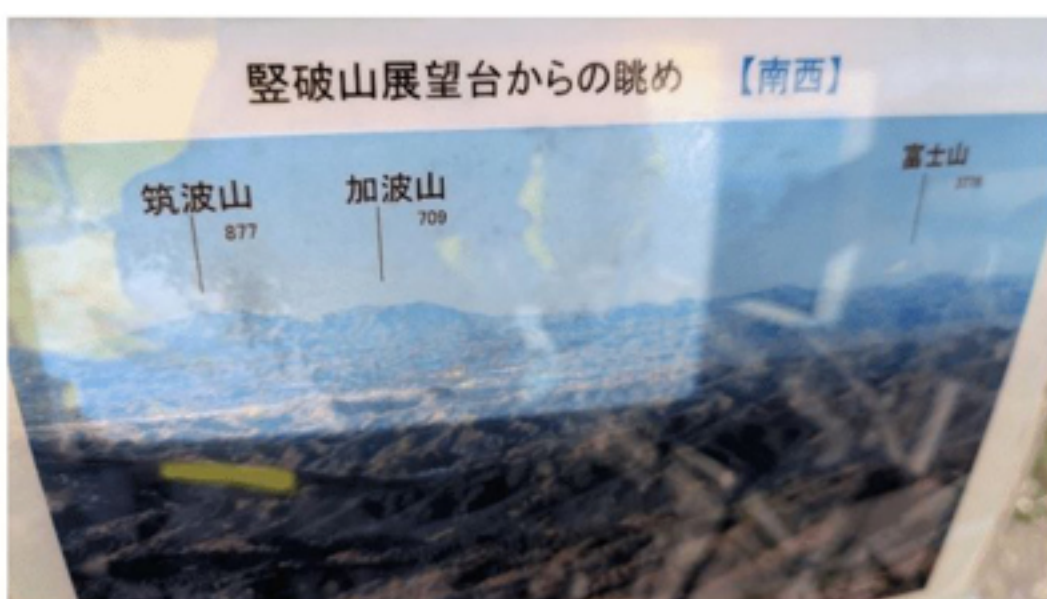
展望台からの眺め、南東側。次頁上、左手が太平洋、山並

みの左手の姿の良い山は神峰山（かみねさん 598m）、写真中央の山は高鈴山（たかすずやま 623m）。



展望台には方角毎に写真が張り付けてある(2段目)。南西方向には筑波山（百名山 877m）と加波山（709m）と富士山の写真があった。筑波山と加波山は同定できたが、富士山は雲に隠れていた。

さらに進むと大きな胎内石があった(3段目左、右)。



展望台から拝殿～釈迦堂の所まで戻る。

昭和 63 年に建てられた記念碑があり、「…戦後荒れていたが昭和 61 年十王町と日立市が合併するのを契機に、堅破山黒前神社奉

賛会によって、拝殿や釈迦堂の改修、駐車場の新設などが行われたと記されていた(下)。





「奈々久良の滝」方面に縦走することにし、少し下った所に太刀割石（たちわれいし）があった（上）。不思議な形だ。

さらに下った伐採地（植林地）から見た堅破山山頂（2段目左）。



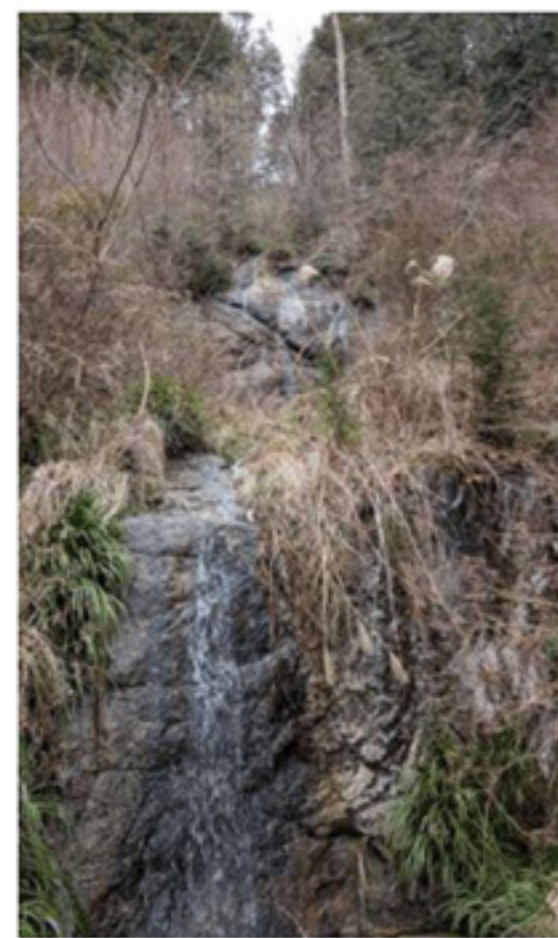
駐車場と奈々久良の滝への分岐を右に下り滝を目指す（2段目右）。



奈々久良の滝は水量が少なかった（3段目左、右）。

空が暗くなってきて、雪がちらほらと舞ってきた。滝では休まずに駐車場まで戻る。

13:13 駐車場着。多くの登山者が2時間で終えるコースを1時間多くかけて、ゆっくり堅破山の歴史に思いを馳せながらの山行だった。雪が斜めに本降りになってきた。車の中でおにぎりを食べ、往路と同じ常磐道、磐越道を経由して帰宅する。



2025年3月 NO136 アンチ・エイジング 山旅遊人